

ウルシ苗木1年目の育苗間隔が2年目の苗木サイズに与える影響

1 はじめに

セルトレイへウルシ種子をまき、育成した苗を圃場へ移植する際の間隔を変え、1年目の苗木サイズを確認した(成果速報No. 406)。今回、この苗木を床替えし、通常の出荷時期である2年目の苗木サイズを確認したのでその結果を紹介する。

2 材料と方法

苗木の準備 (成果速報No. 406記載) 2022年4月上旬にまいた種子から育成したセルトレイ苗を2022年6月上旬に圃場へ移植し落葉期まで育成した。セルトレイ苗を移植する際の育苗間隔は5cm、10cm、15cmの3条件とした。落葉後、苗木を育苗間隔条件ごとに掘り取り、仮伏せ後冬越しした。

移植作業 2023年春に、仮伏せしていた苗木を掘り取り選苗し、直根を10cm残して根を切断し、1年目の育苗間隔条件ごとに苗間20cm、5本×7本で移植した(写真1)。上述試験区を各条件で4区画ずつ設定し、調査対象は、外周1列を除いた計180本(15本×3条件×4区画)とした。

成長調査 移植直後及び成長休止期の秋に苗高及び根元直径を測定した。草葉(1989)による床替・植栽試験から得られた目標苗木規格は、2年生時点で苗高40cm、根元直径12mmとなっている。この規格を2年目の苗木サイズ目安として、目安を満たす苗木の割合を1年目の育苗間隔ごとに比較した。

3 結果・考察

苗高について、1年目は育苗間隔が広いほど苗高が低い苗木が多く出現したが、2年目にはすべての育苗間隔条件において40cm以上の個体の出現頻度が8割程度となった(図1)。また、根元直径について、1年目は育苗間隔が広いほど根元直径が太い苗木が多く出現したが、2年目には12mm以上の個体は10cm、5cm、15cmの順で多く出現し、最も多い15cm間隔では5割程度が12mm以上となった(図2)。

苗高及び根元直径の両方の2年目の苗木サイズの目安を満たす苗木の割合は、根元直径が太い苗木が多く出現した育苗間隔と同じ、10cm、5cm、15cm間隔の順で高くなり、15cm間隔では5割程度となり最も高くなった(図3: オレンジ色部分)。



写真1 2年目苗木の生育状況
(移植後81日目の7月10日時点、右から1年目の育苗間隔が5cm、10cm、15cm)

表1 1年目育苗間隔ごとの2年目苗高及び根元直径の中央値及び標準偏差

	苗高	根元直径
5cm	57.6±17.6cm	11.00±3.43mm
10cm	56.1±15.5cm	10.90±3.33mm
15cm	54.3±16.5cm	12.60±3.10mm

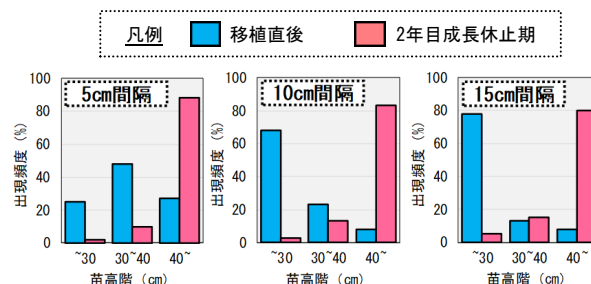


図1 1年目育苗間隔ごとの苗高階別出現頻度

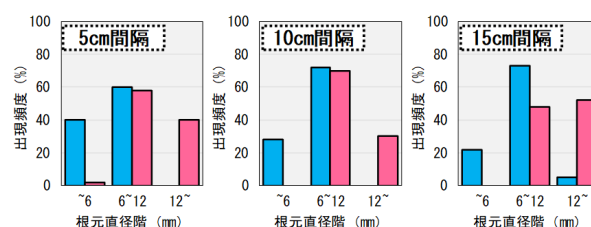


図2 1年目育苗間隔ごとの根元直径階別出現頻度

凡例	根元直径	
	12mm以上	12mm未満
苗高	40cm以上	40cm未満
	40cm以上	40cm未満

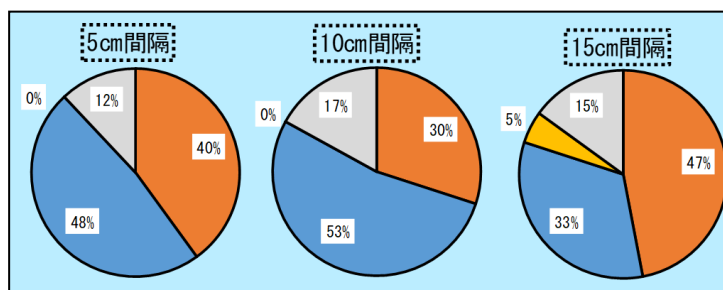


図3 2年目苗木サイズ目安を満たす苗木割合

参考文献

草葉(1989) コナラ・ウルシの育苗(岩手県林業試験場成果報告第22号)

(担当 研究部 専門研究員 中軽米聖花)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>